

2022年度 所員の研究・社会的活動報告

Research Reports 2022

(2022年4月1日～2023年3月31日)

氏名・専門領域	跡部 千慧 ●社会学, ジェンダー研究
論文	<p>1) 木村育恵, 池上徹, 高野良子, 河野銀子, 田口久美子, 跡部千慧, 村上郷子, 井上いずみ (2023) 「教員の働き方とキャリア形成に関するジェンダー分析——全国教員調査をもとにして」『山形大学 教職・教育実践研究』第18号, pp.23-30 山形大学教職研究総合センター.</p> <p>2) Atobe, C. (2022) “An Historical Analysis of the Highly-educated Women’s Labor Force in Japan : Focus on Elementary School Teachers between the 1960s and 2000s”, <i>Journal of the Institute of Community & Human Services</i>, vol.10, pp.1-20.</p>
学会発表	<p>1) 木村育恵, 河野銀子, 田口久美子, 池上徹, 跡部千慧, 高野良子, 村上郷子, 井上いずみ (2022) 「教員の働き方とキャリア形成に関するジェンダー分析——全国教員調査をもとにして」国際ジェンダー学会2022年大会, オンライン, 9月.</p> <p>2) Atobe, C., Igarashi, M. (2022) “Gender studies about Work-Family Reconciliation in HIV-Positive Gay Men in Japan” The 18th EASP annual conference, Online, 6月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内】</p> <p>1) 跡部千慧 (2022) 立教大学ESD研究所, 所員, 6月—現在</p> <p>2) 跡部千慧 (2022) 立教大学ジェンダーフォーラム, 所員, 4月—現在</p> <p>【学外】</p> <p>1) 跡部千慧 (2023) 「福祉の国デンマークのいま」オレンジカフェしずおか・ミニ講話, 静岡, 3月</p> <p>2) 跡部千慧 (2023) 「私らしく働くためのタイムマネジメント」静岡, 1月</p> <p>3) 跡部千慧 (2022) 国分寺市協業事業審査会, 委員, 11月—現在</p> <p>4) 跡部千慧 (2022) 「異年代の人生を疑似体験! 人生ゲーム ライフ・スイッチ」組織内のワーク・ライフ・バランスプロジェクト, オンライン, 7月</p> <p>5) 跡部千慧 (2022) 「ジェンダーについて考えよう」ラウンドテーブル (生煮え研究会), 静岡, 4月</p> <p>6) 跡部千慧 (2022) 社会学系コンソーシアム, 評議員, 2020年10月—現在</p> <p>7) 跡部千慧 (2022) 日本労働社会学会, 幹事 (研究活動委員・社会学系コンソーシアム), 2020年10月—現在</p> <p>8) 跡部千慧 (2022) 静岡県近代史研究会, 幹事, 2017年10月—現在</p> <p>9) 跡部千慧 (2022) 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会 静岡ワークライフ研究所, 客員研究員, 2017年4月—現在</p>
氏名・専門領域	飯村 史恵 ●アドボカシー (権利擁護), 福祉マネジメント
論文	飯村史恵 (2022) 「認知症高齢者の医療及び福祉サービス受給を巡る諸問題: 生活保護法63条返還命令訴訟事案を例に」『コミュニティ福祉学研究所紀要』第10号, pp.21-43, 立教大学コミュニティ福祉学研究所.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員 2) 練馬区社会福祉協議会権利擁護センター運営委員会及び成年後見制度利用促進協議会副委員長 3) 埼玉県社会福祉法人認可等及び介護老人保健施設審査委員会委員, 埼玉県重度障害者対応グループホーム登録事業検討委員会委員長 4) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 5) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画権利擁護部会部会長 6) 志木市成年後見制度利用促進審議会副会長 7) 立川市社会福祉協議会地域あんしんセンターたちかわ運営委員 8) さいたま市高齢者生活支援推進協議会会長 9) 所沢市成年後見制度推進検討委員会委員長 10) 救護施設あかつきオンブズマン 11) 社会福祉法人共働学舎オンブズマン, 評議員選任・解任委員会委員 12) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 13) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報代表理事 14) 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会評議員 15) 社会福祉法人ベタニヤホーム監事, 苦情解決第三者委員, 評議員選任・解任委員 16) 社会福祉法人芙蓉会芙蓉園拠点第三者委員 17) 社会福祉法人福音会評議員 18) 科研費研究(基盤C)「判断能力が不十分な人々を包摂する市民社会の構想: 主体・参加・関係性を軸に」22K01965研究代表者2022~2025年度
-----------------	---

氏名・専門領域	川村 岳人 ●地域福祉, 居住福祉
学会発表	川村岳人(2022)「公営住宅団地における地域コミュニティ形成に向けた課題」第22回日本居住福祉学会大会, 9月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公益財団法人社会福祉振興・試験センター 社会福祉士・精神保健福祉士試験委員 2) 日本居住福祉学会 事務局次長 3) 調布市 再犯防止推進計画策定委員 委員長 4) 調布市 第11期地域福祉推進会議 委員 5) 調布市社会福祉協議会 共同募金調布地区配分推薦委員会 委員

氏名・専門領域	上林 陽治 ●労働社会学, 公共政策学, 公務員制論・公共調達と地域雇用論・公共サービス論・地方自治論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 上林陽治・篠田徹編著(2022・10)『格差に挑む自治体労働政策』日本評論社. 2) 上林陽治(2022・4)『コンシェルジュデスク地方公務員法改訂三版(電子版)』第一法規.
論文	<p>【非正規公務員関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 上林陽治(2022・5)「地方公務員における会計年度任用職員制度の現状・課題」『日本労働法学会誌』(135) pp.177-179. 2) 上林陽治(2022・12)「法の狭間と非正規教員の働き方」『季刊教育法』(215) pp.26-33. 3) 上林陽治(2023・2)「人権保障なき雇用 非正規公務員の現状 北九州市非常勤相談員パワハラ自死事件から考える」『季刊現代の理論』(33) デジタル. <p>【公共調達・公契約条例・ビジネスと人権】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4) 上林陽治(2022・11)「『ビジネスと人権』時代の公共施設管理の課題」『ガバナンス』(259) pp.38-40.

論文	<p>5) 上林陽治 (2022・11) 「「ビジネスと人権」時代の公契約の課題」『信州自治研』(369) pp.7-16.</p> <p>6) 上林陽治 (2022・11) 「日本政府・企業は人権重視のビジネスに転換できるのかー植民地下ナミビア産ウラン「密輸」告発運動と人権市民活動家「カ」の軌跡」『まなびあい』(15) pp.139-146.</p> <p>【貧困・自立支援】</p> <p>7) 上林陽治 (2022・4～2023・3) 「自治体に求められる相談支援」『日経グローバル』連載12回.</p> <p>8) 上林陽治 (2023・3) 「先進事例から考える重層的支援の可能性」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』(25) pp.1-19.</p>
学会発表	<p>1) 上林陽治, 桜井啓太, 瀬山紀子 (2022) 「第20回シンポジウム「福祉制度と非正規公務員——会計年度任用職員制度成立を受けて」」『福祉社会学会』立命館大学オンライン, 7月.</p> <p>2) 上林陽治, 横山麻衣, 仲地二葉 (2022) 「テーマ別分科会④多様な経営形態における非正規労働者」第145回社会政策学会, 日本福祉大学東海キャンパス, 10月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【講演等】</p> <p>【研究会】</p> <p>1) (公財) 地方自治総合研究所 格差是正と地方自治研究会 (主査・篠田徹早稲田大学教授)</p> <p>2) (公財) 地方自治総合研究所 公務員制度研究会 (主査・田村達久早稲田大学教授)</p> <p>3) (公財) 地方自治総合研究所 地方自治関連立法動向研究会 (主査・下山憲治早稲田大学教授)</p> <p>4) 公務員法研究会 (主査・下井康史千葉大学教授)</p> <p>5) 働き方の構造変化共同研究 (主査・田中洋子筑波大学教授)</p> <p>6) 公契約条例制定促進委員会 (世話人・上林陽治)</p> <p>【取材対応・メディア関連】 (寄稿)</p> <p>1) 「公務員の正規非正規間格差は開示されるか」『自治日報』コラム「自治」2022年7月25日</p> <p>(メディア出演)</p> <p>2) 「非正規公務員 残酷物語!? 第1弾」『BS-TBS 噂の東京マガジン』2022年5月22日</p> <p>3) 「非正規公務員 残酷物語!? 第2弾」『BS-TBS 噂の東京マガジン』2022年5月29日</p> <p>4) 「図書館の非正規職員」『CBCラジオ』2022年12月3日</p> <p>5) 「専門職公務員のなり手がいない…揺らぐ公共サービス」『NHK総合 おはよう日本』2023年2月17日</p> <p>(取材対応・コメント)</p> <p>6) 「県庁「非正規公務員」使い捨ての実態」『月刊政経東北』2022年5月</p> <p>7) 「県土木部の「ブラック過ぎる労働環境」」『月刊政経東北』2022年6月</p> <p>8) 「非正規公務員埋まらぬ格差」『南日本新聞』社会面 2022年7月4日</p> <p>9) 「非正規の障害者、雇用更新で悲鳴」『西日本新聞』暮らし面 2022年7月26日</p> <p>10) 「手取り9万8000円の不条理 20代非正規図書館員が声上げた理由」『毎日新聞デジタル』2022年9月16日</p> <p>11) 「真の「男女の賃金格差」分からない恐れ 地方公務員の格差開示 女性多い「非正規」と「正規」を比較できず」『東京新聞』総合 2022年10月22日</p> <p>12) 「なぜ専門職の図書館司書が非正規なのに、異動を繰り返す「素人」が正規職員なのか 官製ワーキングプアの構図」『弁護士ドットコム』2022年10月29日</p> <p>13) 「図書館司書、保育士…なぜ低待遇? 「自治体の貧困ビジネス」に警鐘」『朝日新聞DIGITAL』インタビュー 2022年11月27日</p> <p>14) 「手取り9万円台…非正規司書の悲鳴」『朝日新聞』生活面 2022年11月28日</p>

学内・学外における社会的活動等	<p>15) 「月給9万円台、搾取される図書館司書の窮状 非正規雇用化の背景に自治体のコスト削減」『Business Journal』2023年1月6日</p> <p>16) 「非正規公務員「雇い止め」の不安…会計年度任用職員制度」『読売新聞』くらし面 2023年1月20日</p> <p>17) 「「正職員に嫌われたら終わり」非正規公務員の苦悩「2023年問題」自治体7割強で雇い止めの可能性」『東洋経済オンライン』2023年2月1日</p> <p>18) 「激増する非正規公務員 立教大学特任教授・上林陽治氏」『毎日新聞』政治面 2023年2月14日</p> <p>19) 「二本松市役所に蔓延する深刻なハラスメント」『政経東北』2023年2月</p> <p>20) 「公務員の非正規が進み、深まる男女格差 「公から真っ当な雇用を」」『朝日新聞デジタル』2023年3月9日</p> <p>21) 「非正規公務員女性しわよせ」『朝日新聞』社会面 2023年3月9日</p> <p>22) 「雇い止めが不安…今春、非正規公務員に「3年の壁」 会計年度任用職員、正職員数に迫る自治体も」『南日本新聞』2023年3月19日</p> <p>23) 「年度末、高まる雇用不安 行政サービス低下も」『共同通信』配信 2023年3月20日</p>
-----------------	---

氏名・専門領域	木下 武徳 ●福祉政策
著書	木下武徳 (2022) 「アメリカ」生活保護問題対策全国会議編『外国人の生存権保障ガイドブック』明石書店.
論文	木下武徳 (2022) 「アメリカにおけるコロナ禍の低所得層への経済給付：公的扶助を中心に」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』10号, pp.45-61 立教大学.
資料・研究ノート等	<p>1) 木下武徳 (2023) 「登録手話通訳者の全国実態調査報告 — 調査報告からみる登録手話通訳者の現状と課題」『手話通訳問題研究』163号, pp.26-30 全国手話通訳問題研究会.</p> <p>2) 木下武徳・他共著 (2023) 『2022 (令和4) 年度 厚生労働省 障害者総合福祉推進事業「手話通訳者等の養成カリキュラム策定事業」報告書』全国手話研修センター.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 埼玉県要約筆記者養成講習会講師 2022年8月6日</p> <p>2) 埼玉県手話通訳問題研究会教養講座講師2022年12月18日</p> <p>3) 東京都大田区福祉オンブズマン</p> <p>4) 全日本ろうあ連盟優生保護法対策チーム</p> <p>5) 富士見市介護保険事業推進委員会委員</p> <p>6) 国立市生活保護行政等運営審議会委員など</p>

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学, 持続可能な福祉コミュニティ論
論文	<p>1) 空閑厚樹 (2023) 「「隣人になる」ことについて：「良きサマリア人のたとえ」を通して考えるSDGs、コミュニティ、福祉」『コミュニティ福祉学部紀要』第25号, pp.21-33 立教大学.</p> <p>2) 佐藤太, 空閑厚樹 (2023) 「「ストック」のケアと主権者教育の視点から考える持続可能な町づくりへの取り組み：埼玉県立小川高校における未来ワークショップに基づく考察」『コミュニティ福祉学部紀要』第25号 pp.53-70 立教大学.</p>
資料・研究ノート等	空閑厚樹 (2023) 「メガソーラー発電計画を通して考えるSDGsとコミュニティ福祉」『Rikkyo ESD journal』7号 pp.37-39 立教大学.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 小川町自然エネルギーファーム 副代表</p> <p>2) Global Ecovillage Network Japan 副代表</p>

氏名・専門領域	後藤 広史 ● 貧困・ホームレス問題
著書	後藤広史(2022)「貧困問題と現代社会福祉—『地域福祉/自立支援/生活保護/伴走型支援』を巡って」(古川孝順編「現代社会福祉分析の再構築」所収, pp.315-329).
論文	1) Goto, H., Culhane, D. P., & Marr, M. D. (2022) "Why street homelessness has decreased in Japan: a comparison of public assistance in Japan and the US." European Journal of Homelessness _ Volume, 16(1), pp.81-99 https://www.feantsaresearch.org/en/publications/european-journal-of-homelessness?journalYear=2022#tab1 2) 後藤広史(2022)「誰がホームレス状態から『自立』しているのか?—ホームレス自立支援センターの3年間の支援記録の分析から」『貧困研究』28, pp.66-77. 3) 後藤広史(2023)「日本における『ホームレス支援』の現在地—到達点と展望『都市問題』114(2), pp.52-62.
資料・研究ノート等	1) 後藤広史(2022)「『見えない』生活困窮者—どこに居て、なぜ可視化されないのか?」『調査情報デジタル』(ウェブ媒体) https://tbs-mri.com/n/n2f37f731b22a 2) 後藤広史(2023)「ホームレス自立支援センターから就労自立した人々の仕事に対する意識と就労状況」『空間・社会・地理思想』26, pp.97-100. 3) 後藤広史(2022)書評 松村智史著「子どもの貧困対策としての学習支援によるケアとレジリエンス—理論・政策・実証分析から—」『福祉社会学研究』19, pp.94-98.
学会発表	Kakita, Y., Yamada, S., Goto, H., Culhane, D. P. & Nakano, K. (2022) "Homelessness and Housing Exclusion in Japan from an International Perspective" 16th European Research Conference on Homelessness (in Bergamo, Italy).
学内・学外における社会的活動等	1) 社会福祉学会機関誌査読委員 2) 貧困研究会運営委員 3) 岩手県社会福祉研修講師 4) 社福) 特別区人事厚生事務組合社会福祉事業団 理事 5) 認定NPO法人「山友会」理事 6) 日本社会福祉学会関東地域ブロック理事 7) 社会福祉系学会連合 事務局長

氏名・専門領域	権 安理 ● 公共・社会哲学, 公共空間論
学内・学外における社会的活動等	【学内役職】 1) 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士課程前期課程主任 2) 立教大学サービスラーニングセンター運営協議委員会委員 【学外役職】 1) 関東地区大学教育研究会幹事 【講演・講義等】 1) 権安理「『いいね!』から始まる公共デザイン——シェアの可能性」, 夢ナビ講義, 2022年5月 2) 権安理「研究室訪問」, 夢ナビライブ, 2022年10月15日 3) 権安理「廃校活用について——事例とアイデア等」, 廃校活用勉強会(陸前高田市役所), 2023年3月22日 【学術研究資金】 1) 山下智加・権安理「まちのデザインと地域コミュニティ活性化——『シェア金沢』と『まちやど HANARE』」, 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金: 企画研究プロジェクトⅡ

氏名・専門領域	阪口 毅 ●都市社会学, 地域社会学, コミュニティ論
著書	阪口毅 (2022) 「新宿・大久保の小さな祭りから —— フィールドを往還する」 新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』ミネルヴァ書房.
論文	阪口毅 (2022) 「場所と出来事のコミュニティ研究 —— 新宿・大久保調査をふり返る」『地域社会学会ジャーナル』No.8, pp.11-18.
学会発表	阪口毅 (2022) 「場所と出来事のコミュニティ研究：新宿・大久保のフィールドワークを振り返る」 地域社会学会2022年度第2回研究例会, 東京, 10月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域社会学会奨励賞 (個人著作部門)：阪口毅 (2022) 『流れゆく者たちのコミュニティ —— 新宿・大久保と『集合的な出来事』の都市モノグラフ』ナカニシヤ出版. 2) 日本学術振興会科学研究費 (若手研究) 「コミュニティの移動性と領域性に関する歴史社会学的研究：立川・砂川を事例として」2019-2023年度 3) 東京都北区基本構想審議会委員 4) 地域社会学会研究委員

氏名・専門領域	重田 史絵 ●福祉サービス評価, 障害福祉
論文	重田史絵, 吉田光爾, 高橋秀人 (2023) 「精神障害者を主とする就労継続支援B型事業所における利用者状態と支援時間の関係性についての実態把握」『社会福祉学評論』第23号, pp.46-60 一般社団法人日本社会福祉学会関東部会.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大冢賀政昭, 柿沼倫弘, 森川美絵, 森山葉子, 重田史絵 (2022) 「社会的ケア関連QOLの介護サービスの質評価への適用可能性の検討 — 1 法人でのASCOT日本語版を用いた調査データをもとに —」日本社会福祉学会第70回秋季大会, 9月. 2) 高橋秀人, 大冢賀政昭, 山口佳小里, 重田史絵 (2023) 「WHODAS2.0に基づく障害, 主観的非健康意識に関する最適閾値の推定」第33回日本疫学会学術総会, 1月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「ICFに基づく利用者のwell-being測定による福祉施設アウトカム評価の研究」研究代表者 (2021-2023年度) 2) 全国障害者総合福祉センター 「令和4年度 利用者一人ひとりの力を高める支援 ～社会生活力を高めるための実践に向けて～」オンライン研修会 (2022年10月1日・2日) 3) 社会福祉法人生活クラブ風の村 「障害福祉サービス事業所における利用者視点のケア評価の検討」協力研究員 4) 厚生労働科学研究費補助金 (政策科学総合研究事業) 分担研究班 「地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類 (ICF) による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究」協力研究者 5) 国立保健医療科学院, 協力研究員 6) (公財) 東京都福祉保健財団 東京都福祉サービス評価推進機構, アドバイザリースタッフ 7) 東京都福祉サービス第三者評価, 評価者 8) 特定非営利活動法人みなづき会 (就労継続支援B型事業所), 理事 9) 日本リハビリテーション連携科学学会 社会リハビリテーション研究会, 共同代表幹事 10) 経営行動研究学会, 幹事 11) ぱあとなあ千葉, 成年後見人

氏名・専門領域	篠崎 ひかる ●司法福祉, ソーシャルワーク, 地域生活支援
論文	篠崎ひかる(2022)「刑事司法システムの対象となった高齢者への包括的支援に関する一考察—地域生活支援の実態と課題から—」東京都立大学人文科学研究科博士学位論文, pp.135.
学内・学外における社会的活動等	埼玉県社会福祉事業団ファミリーソーシャルワーク事例検討会講師

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●健康栄養学, スポーツ栄養学
著書	1) 杉浦克己(2023)「5章 運動と栄養」『トレーニング指導者テキスト [理論編] 3訂版』NPO法人 日本トレーニング指導者協会編著. pp.103-124, 大修館書店. 2) 杉浦克己(2022)「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール'23』pp.16-17, 大修館書店.
論文	1) 杉浦克己(2023) スポーツ選手を対象としたプロテイン・アミノ酸のエビデンス. 臨床スポーツ医学. 40 (1), pp.58-62. 単著 2) 杉浦克己(2023) 臨スポ OPINION サプリメント, 恐るるに足らず. 臨床スポーツ医学. 40 (1), pp.92-93. 単著 3) 杉浦克己(2022) 自著を語る. 保健体育教室 315, p.7. 大修館書店 4) 杉浦克己(2022) 2度目のサバティカル. まなびあい. 第15号, pp.174-176. 単著 5) 杉浦克己(2022) 学校で役立つスポーツ栄養学. 季刊 栄養教諭 第68号, pp.22-29. 単著 6) 杉浦克己(2023) 寿命を延ばす. JATI EXPRESS 93号, pp.16-19. 単著 7) 杉浦克己(2022) サッカーの栄養に関する一考察. JATI EXPRESS 92号, pp.18-21. 単著 8) 杉浦克己(2022) 環境問題と栄養 その②. JATI EXPRESS 91号, pp.18-21. 単著 9) 杉浦克己(2022) 環境問題と栄養. JATI EXPRESS 90号, pp.18-21. 単著 10) 杉浦克己(2022) 食糧問題とフードテック. JATI EXPRESS 89号, pp.16-19. 単著 11) 杉浦克己(2022) 健康寿命を阻む因子③認知症. JATI EXPRESS 88号, pp.14-17. 単著
学会発表	杉浦克己(2023)「ウエルネスに関わる栄養教育」シンポジウム『すべての人の生きる喜びのために』, 日本ウエルネス学会第19回大会, 埼玉, 9月. ウエルネスジャーナル. 19: 3-13に掲載
学内・学外における社会的活動等	【学内】 1) 立教大学ウエルネス研究所 所長 【学外】 1) 埼玉県新座市 健康づくり推進協議会 副会長 2) 日本体力医学会 評議員 3) NPO法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与 4) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会 講師 5) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会 講師 6) 健康経営エキスパートアドバイザー (東京商工会議所) 7) 講演「アスリートの栄養サポート」シンポジウム19【アスリートを支える多分野間の連携】第95回日本整形外科学会学術総会(神戸)2022年5月20日 8) 講演「スポーツ栄養学」JBBF指導者講習会 2022年5月22日, 2023年2月19日

学内・学外における社会的活動等	<p>9) 講演「人生100年時代のウェルネス～心と体の健康を保つ栄養学～」第一貨物労働組合 研修会 2022年5月29日</p> <p>10) 講演「スポーツとサプリメント」日本スポーツ協会主催 スポーツドクター研修会（オンデマンド形式）録画；2022年6月20日，視聴期間；2022年7月1日～29日，2023年2月1日～28日</p> <p>11) 講演「栄養士が知っておきたい摂食障害 第2期 わかるスポーツ栄養学」日本摂食障害協会 2022年8月21日</p> <p>12) 講演「高齢者の運動と栄養」高齢者体力づくり支援士養成講習会 2022年9月24日，2023年3月5日</p>
-----------------	---

氏名・専門領域	杉山 明伸 ●医療ソーシャルワーク，精神保健福祉
論文	杉山明伸，渡辺一生（2023）「新型コロナウイルス感染症の医療ソーシャルワーカーへの影響」『コミュニティ福祉学部紀要』25号，pp.71-86，立教大学。
学会発表	<p>1) 小笠原舞子，杉山明伸ほか（2023）「高次脳機能障害に対する支援の現状と課題」第27回埼玉県医療社会事業学会，埼玉，2月。</p> <p>2) 渡辺一生，杉山明伸（2023）「コロナ禍における医療ソーシャルワーカー業務への影響について」第27回埼玉県医療社会事業学会，埼玉，2月。</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 公益社団法人埼玉県医療社会事業協会会長</p> <p>2) 社会福祉法人ふれあい福祉協会評議員</p> <p>3) 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会契約締結審査会委員</p> <p>4) 自治医科大学附属さいたま医療センター臨床研究倫理審査委員会委員</p>

氏名・専門領域	鈴木 あおい ●精神保健福祉学，社会福祉学
著書	<p>1) 鈴木あおい（2022）「精神保健福祉士の業務特性」福祉臨床シリーズ編集委員会，古屋龍太・大塚淳子『精神保健福祉の原理』弘文堂。</p> <p>2) 鈴木あおい（2022）「地域分野の精神保健福祉士の業務」日本精神保健福祉士協会業務指針委員会制作『精神保健福祉士の業務指針の概要 動画シリーズ』日本精神保健福祉士協会。</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 公益社団法人東京社会福祉士会自殺予防ソーシャルワーク委員会委員</p> <p>2) 東京社会福祉士会自殺予防委員会内部研修会「自殺リスクのある方への支援について考える事例検討会」ファシリテーター，2022年9月17日，武蔵野大学。</p> <p>3) 東京社会福祉士会自殺予防委員会「2022年度自殺予防ソーシャルワーク研修」企画運営参加・支援，2023年3月26日，立教大学。</p> <p>4) 一般社団法人ケアラーワークス「ヤングケアラー相談支援アップデート研修『自殺予防の視点を踏まえたソーシャルワーク 不安を抱えた子ども・若者の支援のために～自殺相談ダイヤルやSNS相談の実践から』講師，2023年3月13日，オンライン。</p> <p>5) 「クライアントの自殺発生時にソーシャルワーカーが活用する対応マニュアルの開発研究」科学研究費助成事業基盤C 22K02076（研究代表小高真美）における研究協力。</p> <p>6) 特定非営利活動法人陽だまり企画（東京都三鷹市）非常勤職員</p> <p>7) 特定非営利活動法人学生支援ハウスようこそ（東京都）ハウスアテンダント</p>

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Suzuki Yayoi (2022) <i>The Spread of Disparities and Inequality due to the Coronavirus Disease 2019: The Conditions Faced by Essential Immigrant Workers in New York City</i>, Bulletin of the College of Community and Human Services, Rikkyo (Saint Paul's) University, pp.87-108. 2) 鈴木弥生「バングラデシュにおける社会開発とSDGs —— 現地NGOの子どものメイドへの識字・教育活動 ——」『Rikkyo ESD Journal』23-30頁。
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業、基盤研究(C)「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民：移民第二世代の生活実態調査」2018～2023年度、研究代表者(18K11792)。 2) 科学研究費助成事業、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「ニューヨーク市の移民労働者：新型コロナウイルス感染の影響についての国際共同研究」2022年10月～2018年3月、研究代表者(22KK0025)。 3) 立教大学ESD研究所、所員。 4) 鈴木弥生「グローバルな視点から考えるコミュニティ福祉：Think globally act locally」、シンポジウム：共通論題『コミ福25周年 — 「いのちの尊厳」の視点でふりかえり、今後を展望する —』共同シンポジスト、浅井春夫、沼澤秀雄、湯澤直美。

氏名・専門領域	西田 恵子 ●社会福祉学, 地域福祉論
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 西田恵子(2022)「社会福祉情報の提供と利用 — 非対称性の克服」古川孝順編著『現代社会福祉分析の再構築』中央法規出版 351-373頁。 2) 西田恵子(2022)「福祉のまち・港区」港区編『港区史・現代編』下巻 107-194頁。
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「ララ救援物資の形成・配分過程 ～関与機関・団体の多様性とその帰結～」研究代表者(2018-2021年度)(2022年度繰越) 2) 社会福祉学会 関東部会 運営委員 3) 高島町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会委員長 4) 東海村地域福祉活動計画推進委員会委員長 5) 社会福祉法人 武蔵野 監事

氏名・専門領域	濱田 江里子 ●福祉政治, 若者政策
著書	Hamada, Eriko and Mari Miura. (2022) "The Quiet Diffusion of Social Investment in Japan," Julian Garritzmann, Silja Häusermann, Bruno Palier eds., <i>The World Politics of Social Investment: Volume II Political Dynamics of Reform</i> , Oxford University Press.
資料・研究ノート等	濱田江里子(2023)「福祉国家と危機の再考」『生活経済政策』313号, 2023年2月号, pp.44-45.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 上智大学グローバル・コンサーン研究所準所員 2) 日本行政学会国際交流委員 3) 日本比較政治学会企画委員 4) 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「多様化する社会における福祉体制の動態 —— 日韓台比較研究を通じた理論開発」研究分担者(研究代表者: 松田亮三, 課題番号20H1605)

学内・学外における社会的活動等	5) 濱田江里子 (2022) 「困窮する若者と住まい —— 政策形成に市民はどう参加できるのか」上智大学グローバル・コンサーン研究所パネルディスカッション, 上智大学, 10月
-----------------	---

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, 行政学
著書	上林陽治・篠田徹編著 (櫻井純理, 原田晃樹, 正木浩司, 野口鉄平, 斉藤徹史著) 『格差に挑む自治体労働政策 — 就労支援、地域雇用、公契約、公共調達 — 』(「第六章 グローバル資本主義に対抗する支え合いの経済」, 「第七章 社会的価値を反映させた公共調達 (付带的政策) の可能性 — 英国自治体の取り組みからの示唆」執筆) 日本評論社, 2022年, pp.280 (131-154, 157-180).
論文	1) 原田晃樹「労働者協同組合の可能性と課題」『月刊司法書士』612号, 2023年, pp.8-16, 査読無し. 2) 原田晃樹「新型コロナウイルス感染の影響からみた公的サービスの課題」『都市とガバナンス』38号, 2022年, pp.14-19, 査読無し. 3) 原田晃樹「ガバナンス論からみた非営利セクターと政府の協働」『季刊行政管理研究』181号, 2023年, pp.36-51, 査読無し.
資料・研究ノート等	一般社団法人全国食支援活動協力会『生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業報告書』(令和5年3月)及び『「食でつながる」活動ガイドブック — 事例から考えるアセット活用アイデア』(令和5年3月)の分担執筆.
学会発表	原田晃樹「社会的価値を反映させた公共調達の可能性 (分科会テーマ: 人権を尊重し労働者を保護する持続可能な公共調達を考える: 国際的な潮流と国内外の事例を踏まえて)」『日本社会関係学会』(千葉大学, 2023年2月17日).
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内役職】</p> <p>1) コミュニティ政策学科学科長</p> <p>【学外役職】</p> <p>1) 生活クラブ生協神奈川 員外理事 2) 社会福祉法人ふきのとう 評議委員 3) 埼玉県共助社会づくり推進委員会 委員長 4) 四日市市行財政改革推進会議 会長 5) 新座市子ども子育て会議 会長 6) 新座市総合計画審議会 副会長 7) 鎌倉市市民活動推進委員会 委員長 8) 豊島区南大塚保育園運営委員会 委員 9) 社会的企業研究会 運営委員 10) 茅ヶ崎市市民活動推進委員会 副委員長 11) 川崎市指定特定非営利活動法人審査会 委員 12) 生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業研究委員 (令和4年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人建国増進等事業) 13) 一般社団法人全国食支援活動協力会「多世代が食でつながるコミュニティづくり選定委員会」委員 (2022年度「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく実行団体選定委員会) 14) 一般社団法人全国食支援活動協力会「こども食堂サポート機能設置事業」評価委員会 委員 (2019年度「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体評価委員会) 15) ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成 委員 (令和4年度厚生労働省補助事業) 16) 特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構「2022年度アソシエーション活動実態調査に関する研究会」アドバイザー</p>

学内・学外における社会的活動等	<p>【学会役職】</p> <p>1) 自治体学会企画部会委員</p> <p>【研究活動】</p> <p>1) 公益財団法人地方自治総合研究所「格差是正と地方自治研究会」委員</p> <p>2) 科学研究費助成事業(基盤研究C一般)「公共調達・契約における社会的価値評価の可能性 — 現場レベルの協働の可能性とその条件」研究代表者(課題番号:21K02055)</p> <p>3) 科学研究費助成事業(基盤研究B)「社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ出すものは何か — コミュニティ開発の国際比較研究 —」研究分担者(研究代表者:藤井敦史)(課題番号:18H00935)</p> <p>4) 科学研究費助成事業(基盤研究C一般)「不人気国策受け入れ政策の政治学:正当化の多重構造と合意形成」研究分担者(課題番号:21K01314)</p>
-----------------	---

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO 論
著書	山岡義典・椎野修平・原田峻(2022)「⑮支援行政」大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所 監修『増補改訂版 日本ボランティア・NPO・市民活動年表』明石書店.
論文	<p>1) 原田峻(2022)「広域避難者支援の成果と課題 — 埼玉県と愛知県の比較から」『地域社会学年報』第34集, pp.87-101.</p> <p>2) 原田峻(2022)「現代日本におけるロビイストの役割 — NPO法制定・改正の事例から」『法律時報』第94巻第8号, pp.12-17.</p> <p>3) 原田峻・西城戸誠(2022)「東日本大震災・福島原発事故から11年目を迎えた広域避難の現状と課題 — 埼玉県における自治体・避難者調査の知見から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第10号, pp.99-114.</p>
資料・研究ノート等	<p>1) 原田峻(2022)「書評 今井照・自治総研編『原発事故 — 自治体からの証言』」『地域社会学年報』第34集, pp.191-192.</p> <p>2) 原田峻(2022)「解題 コロナ禍における市民活動」『東海社会学年報』第14号, pp.89-90.</p>
学会発表	原田峻(2022)「コロナ禍における市民活動のアドボカシー — 要望書の比較分析を中心に」東海社会学会第15回大会シンポジウム「コロナ禍におけるエッセンシャル・ワークと市民活動」, 大同大学(ハイブリッド開催), 2022年6月.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 科学研究費補助金(若手研究(B))「超党派議員連盟と社会運動:ロビイングのイシュー横断的分析」(2017~2022年度, 研究代表者)</p> <p>2) 科学研究費補助金(基盤研究(B))「社会的連帯経済の『連帯』を紡ぎ出すものは何か — コミュニティ開発の国際比較研究 —」(2018~2022年度, 研究分担者)</p> <p>3) 科学研究費補助金(基盤研究(C))「不登校支援のローカルガバナンス:教育社会学・地域社会学の融合的研究」(2022~2025年度, 研究分担者)</p> <p>4) 東海社会学会 理事・研究企画委員(2020年7月~2022年6月)</p> <p>5) 地域社会学会 研究委員(2020年12月~2022年5月)</p> <p>6) NPO法人埼玉広域避難者支援センター 理事(2016年4月~)</p> <p>7) NPO法人サーベイ 監事(2019年6月~)</p> <p>8) 原田峻(2023)「執筆者特別報告1 特活法の立法とその後の改定過程」大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所「増補改訂版『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』を読み解く会 ⑮支援行政・⑯企業の社会貢献」, 大阪ボランティア協会(ハイブリッド開催), 2023年3月</p>

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●コミュニティ開発論, 社会的連帯経済論
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 藤井敦史「韓国ソウルの事例から考える社会的連帯経済」『所報協働の発見』357号, pp.131-141, 2022年8月. 2) 藤井敦史「日本の社会的連帯経済(SSE)と労働金庫への期待」『think-R』vol.32, pp.1-9, 2022年9月. 3) 藤井敦史「ワーカーズ・コレクティブと社会的連帯経済」『社会的連帯経済(ちば社会的連帯経済研究所) vol.6拡大号, pp.8-9, 2022年9月. 4) 藤井敦史「これからのワーカーズ・コレクティブと生活クラブ — 社会的連帯経済というコンセプトから考える」『社会的連帯経済フォーラム — 地域コミュニティづくりとワーカーズ・コレクティブ運動』(生活クラブ首都圏リージョナル連帯主催2022年6月11日記録集) pp.13-24, 2023年3月.
資料・研究ノート等	藤井敦史, 原田晃樹, 相良孝雄「(座談会) みんなが生きていける経済をどうつくっていくのか」, 『地上』vol.76-7, pp.48-51, 2022年7月号.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的連帯経済推進フォーラム会長 2) アジア太平洋資料センター (PARC) 理事 3) 神奈川生き生き市民基金理事 4) 市民セクター政策機構理事 5) 日本NPO学会理事

氏名・専門領域	前田 一歩 ●都市社会学, 歴史社会学, 社会調査
著書	中井雅之・前田一歩(2023)「パネルデータで見るコロナ期日本の労働市場の軌跡 企業経営の動向と経済」樋口美雄/労働政策研究・研修機構編『検証・コロナ期日本の働き方 — 意識・行動変化と雇用政策の課題』慶應義塾大学出版会.
論文	前田一歩, 馬渡玲欧(2022)「地域開発を正当化する住民の論理を可視化する — 『交差する辺野古』が切り開く方法と理論の地平」『書評ソシオロゴス』第18号, pp.1-16 ソシオロゴス編集委員会.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 前田一歩, 堀江和正, 瀬戸健太郎(2022)「『国鉄女子労働者調査』(1952)の復元二次分析: 計量歴史社会学の実践として」第95回日本社会学会大会, 大阪, 11月. 2) 前田一歩(2023)「計量歴史社会学におけるテキストマイニングの適用可能性: 国鉄労働組合婦人部調査(1952)の復元から」ソーシャル・コンピューテーション学会 第16回研究例会, 東京, 3月. 3) 前田一歩, 瀬戸健太郎, 堀江和正(2023)「労働調査資料の復元過程と二次分析 — 国鉄女子労働者調査とソーシャルニーズ調査での実践」課題公募型二次分析研究「戦後福祉国家成立期の福祉・教育・生活をめぐる調査データの二次分析」成果報告会, 東京, 3月.
学内・学外における社会的活動等	前田一歩(2022)「『縫う』から広がる近代日本への想像力」ZOZO NEXT『Fashion Tech News』(寄稿)

氏名・専門領域	松山 真 ●医療ソーシャルワーク, ソーシャルワーク理論
論文	松山真(2023)「いのちの尊厳 陸前高田での語りをとおして考える」『コミュニティ福祉学部紀要』第25号, pp.109-119 立教大学.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 陸前高田市『まち・ひと・しごと総合戦略会議』委員 2) 高田高校『未来創造プロジェクト協議会』委員 3) 下妻市『未来戦略会議』座長 4) 千代田区『虐待防止推進会議』委員

学内・学外における社会的活動等	5) キャリアコンサルティング技能検定委員 6) 陸前高田グローバルキャンパス機構長 7) 立教大学・陸前高田サテライト サテライト長
-----------------	---

氏名・専門領域	山田 恵子 ●スクールソーシャルワーク, 教育福祉問題研究
論文	山田恵子 (2023) 「鈴木道太の実践理論における概念の変遷 — 子どもの『生活』に切り結んで —」『早稲田教育学研究』第14号, pp.53-67, 早稲田大学.
資料・研究ノート等	1) 山田恵子 (2022) 「連載⑬教師も他者に相談し、他者の力を借りられることが大切」『子どものしあわせ』854号, pp.42-45, 日本子どもを守る会. 2) 山田恵子 (2022) 「連載⑭学校におけるチームアプローチ」『子どものしあわせ』856号, pp.42-45, 日本子どもを守る会. 3) 山田恵子 (2022) 「家族をめぐる潜在的な課題と新たな家族問題」『子ども白書2022』pp.108-111, かがわ出版. 4) 山田恵子 (2022) 「連載⑮多機関連携から多機関協働に向けて」『子どものしあわせ』858号, pp.42-45, 日本子どもを守る会. 5) 山田恵子 (2022) 「連載⑯地域で育てる問題解決の力」『子どものしあわせ』860号, pp.44-47, 日本子どもを守る会. 6) 山田恵子 (2022) 「書評りぶらい スクールソーシャルワークの実践と理論: 養育困難家庭の不登校児の学習権保障をめぐる」『社会福祉学』63巻3号, pp.198-200, 日本社会福祉学会. 7) 山田恵子 (2022) 「連載⑰支援機関の連携・協働」『子どものしあわせ』862号, pp.44-47, 日本子どもを守る会. 8) 山田恵子 (2023) 「子どもの不登校・孤立 — スクールソーシャルワーカーの働きかけ」『みんなのねがい』No.684, pp.30-31, 全国障害者問題研究会. 9) 山田恵子 (2023) 「連載⑱スクールソーシャルワークの発展を願って」『子どものしあわせ』864号, pp.42-45, 日本子どもを守る会. 10) 山田恵子 (2023) 「子ども期を子どもとして過ごすために」『子どものしあわせ』865号, pp.4-5, 日本子どもを守る会.
学会発表	1) 山田恵子 (2022) 「鈴木道太の生活教育の展開」早稲田大学文学学術院教育学会2022年度教育学研究発表大会, 東京, 7月. 2) 山田恵子 (2022) 「スクールソーシャルワークを通して考えてきたこと」第60回教育科学研究会全国大会, 東京, 8月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本子どもを守る会編『子ども白書2022』子どもと家庭領域編集委員 2) 日本子どもを守る会編『子どものしあわせ』編集委員 3) 東京都江東区スクールソーシャルワーカースーパーバイザー

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●障害者福祉論, ケアの方法論, 福祉文化論
著書	結城俊哉 (2022) 『ケアのフォークロア=対人援助の基本原則と展開方法を考える=』高学出版 (第4刷版). 結城俊哉編著 (2022) 『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店 (第3刷版).
論文	1) 結城俊哉 (2022) 「障害・病 (慢性疾患・難病)・依存症をめぐる「痛み」に関する検討～当事者の「生 (Life) の物語」を読み解く視点～」『コミュニティ福祉研究所紀要』第10号, pp.129-150 立教大学. 2) 結城俊哉 (2023) 「戦争と平和の違い、ひとはなぜ戦争をするのか～戦争に抗う反戦思想としての福祉文化～」『福祉文化研究』(2023, Vol.32). pp.39-49 日本福祉文化学会.

資料・研究ノート等	<p>【資料】 板橋区発達障がい者支援センター運営委員会（共著）（2022）『板橋区発達障がい者支援センター「2021年度事業報告書」＆「継続相談者実態調査報告書」』（全38頁）.</p> <p>【書評】 結城俊哉（2023）『図書新聞3575号』（2023年1月21日版）（書評図書：「飯野由里子・星加良司・西倉実季著『「社会」を扱う新たなモード：障害の社会モデルの使い方』生活書院」）.</p>
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学ボランティアセンター・副センター長 2) 全学共通科目（コラボ科目）『ボランティア論』コーディネーター担当教員 3) 立教大学・Future Project（Teams A）：担当教員 4) 調布市福祉人材育成センター 運営委員会（委員長） 5) NPO法人日本障害者協議会（JD）月刊（機関誌）『すべての人の社会』編集委員 6) 練馬区障害者自立支援施設等指定管理者選定小委員会（委員） 7) 練馬区障害者自立支援施設民営化検討小委員会（委員） 8) 板橋区発達障がい者支援センター運営委員会（委員長） 9) 日本福祉文化学会（研究委員会関東ブロック：「居場所研究会」担当委員） 10) 公益社団法人やどかりの里「第三者委員」 <p>【講演・研修等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉（2023）（総括）「第6回ちょうふ福祉実践フォーラム：今こそ福祉現場で性教育とジェンダー問題を考える」調布市福祉人材育成センター（東京・2月） 2) 結城俊哉（2023）「援助者のダークサイドについて考える＝障害者虐待問題・いのちの尊厳とは＝」調布市福祉人材育成センター（東京・3月）

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, 女性支援政策, ジェンダー学, 貧困研究
書籍	湯澤直美（2022）「社会福祉事業にみる女性のセクシュアリティの統制 — 婦人保護事業・母子福祉事業の展開過程」古川孝順編『現代社会福祉分析の再構築』中央法規.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湯澤直美（2022）「コロナ禍におけるシングルマザーの現況と政策課題」フェミニスト経済学会事務局編『経済社会とジェンダー』7巻, pp.65-94. 2) 湯澤直美（2022）「女性への相談支援の必要性 — コロナ禍の経験からの考察」公益財団法人日本学術協力財団『学術の動向』27（5）, pp.17-23. 3) 湯澤直美（2023）「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律のポイントと自治体の役割」地方自治研究機構編『自治体法務研究』72号, pp.56-60.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) わくわくシニアシングلز編・湯澤直美研究協力『中高年シングル女性の生活状況実態調査報告書：私たちはここにいる — いないことにしないで』. 2) インタビュー記事（2023）「子どもの貧困問題にジェンダーの視点を」一般社団法人市民セクター政策機構『社会運動』449号, pp.38-47. 3) インタビュー記事（2023）「インタビュー 調査に協力した湯澤直美・立教大学教授に聞く シングルで生きることを保障する中立的な社会政策の徹底を」株式会社金曜日『週刊金曜日』31（5）, pp.31-32.
学会等報告	湯澤直美（2023）「女性における危機・リスクの低減と制度改革」日本学術会議公開シンポジウム・社会学委員会社会福祉学分会主催『コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革』.

<p>学内・学外における 社会的活動等</p>	<p>【学外：社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本学術会議「社会学委員会・社会福祉学分科会」委員 3) 日本学術会議「社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」委員 4) 貧困研究会副代表 5) 日本子ども家庭福祉学会監事 6) 内閣府「民間シェルター等による配偶者暴力被害者等の支援の充実のための調査研究事業」委員長 7) 全国社会福祉協議会「母子生活支援施設協議会」中央推薦協議委員 8) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定推進会議・委員 9) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長 10) 東京都子供・子育て会議副委員長 11) 神奈川県男女共同参画審議会委員 12) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」評議員 13) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事 14) 社会福祉法人「愛の家」評議員 15) 「特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団」評議員 16) NPO法人学生支援ハウスようこそ副理事長 <p>【学内】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニティ福祉学部学部長 2) 立教学院理事 3) 立教学院健康保険組合理事 <p>【研究活動】</p> <p>科学研究費助成事業（基盤研究C）「女性支援政策の構築に向けた婦人保護事業の現代的再編に関する研究」研究代表者：湯澤直美（課題番号：20K02249）</p>
-----------------------------	---